平成21年度　教育実習修了生へのアンケート結果

文学部教職課程
准教授　瀬戸口　昌　也
准教授　今　井　　航

1．アンケートの実施目的

教育実習を終えた教職課程履修者に対して、平成21年11月27日（金）に事後の実習指導が行われた。その際、アンケートを実施した。本アンケートは、平成19年度から実施しており、今回で3回目となる。

教育実習の内容はどうであったか。また、実習を終えてどのような変化があったか。今回もそのような問いを教育実習の修了生に投げかけ、彼らがそれに対して自らどのように評価しているのかを答えてもらった。今回からは、新しく「教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験したことがあるか」についても問うこととした。

2．方法

当日は、115名の履修者が対象となった。アンケートの内容は、大きく分けて**教育実習に関する評価**と**自己評価**の二点であった。いずれも、５段階評価を採用した。５段階は、以下のように設定した。

5 強くそう思う　4 そう思う　3 どちらともいえない　2 そう思わない　1 全くそう思わない

上記１から５までのうち一つだけ数字を選び、これに○印を付けてもらった。また、**その他**として主に教員採用試験に関する事項を調査した。さらに、**教職課程への要望**を自由に記述してもらった。より具体的に示すと、以下の通りである。

Ⅰ．教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。	5	4	3	2	1
②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。	5	4	3	2	1
③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。	5	4	3	2	1
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。	5	4	3	2	1

Ⅱ．自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。	5	4	3	2	1
②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。	5	4	3	2	1
③大学卒業後は、教職関係（公・私立の非常勤・臨採・塾講師など）に就職したい。	5	4	3	2	1
④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。	5	4	3	2	1

Ⅲ．その他（YesかNoのどちらかに○印を付けてください）

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。	Yes	・	No
②あなたは、今年度の教員採用試験を受けましたか。	Yes	・	No
③今年の６月中旬～７月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていますか。	Yes	・	No
④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。	Yes	・	No

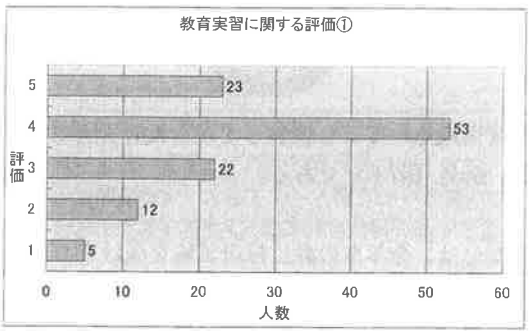
Ⅳ．教職課程への要望（下の空欄に、実習の事前・事後指導や講義・演習のことなど自由に書いてください）

3．アンケート結果

それでは、項目ごとに結果をみてみよう。

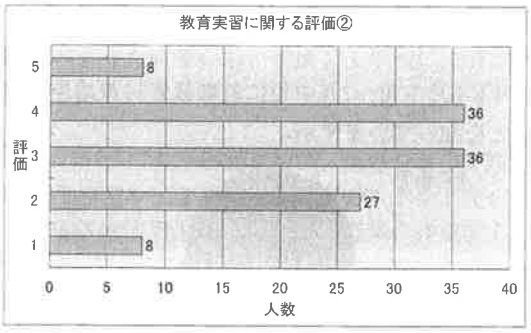
Ⅰ．教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。



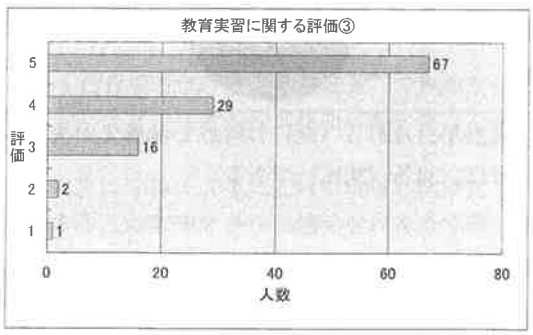
76名（66％）が十分に教材研究を行い、授業にのぞんだとしている。

②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。



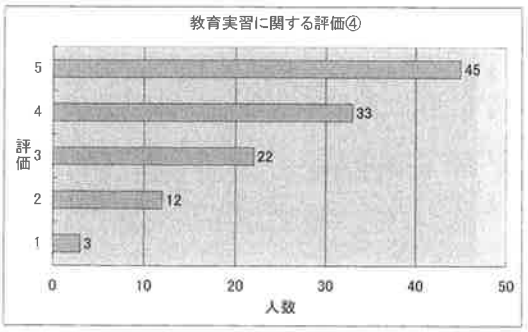
学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた者は44名（38％）である反面、71名（62％）がどちらともいえない、あるいは思い通りにはいかなかったとしている。

③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。



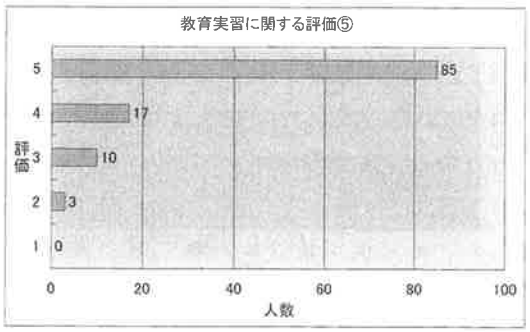
96名（83％）が熱意をもって、教育実習に取り組んだとしている。

④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。



78名（68％）が積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかったとしている。

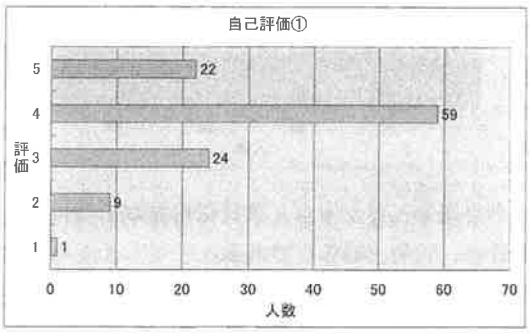
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。



102名（89％）が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守ったとしている。一方で、ごく少数ではあるが、そうではなかったとする回答もみられる。

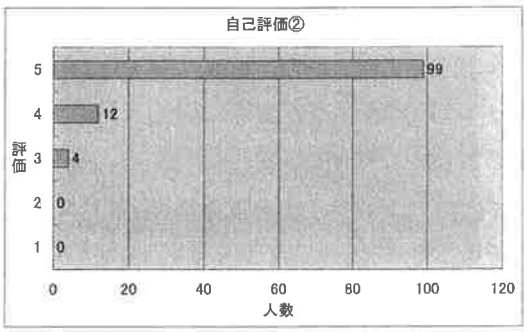
Ⅱ．自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。



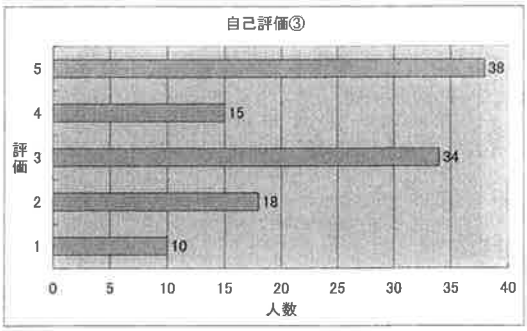
81名（70％）が教育実習中に学習指導案の作成能力が向上したとしている。

②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。



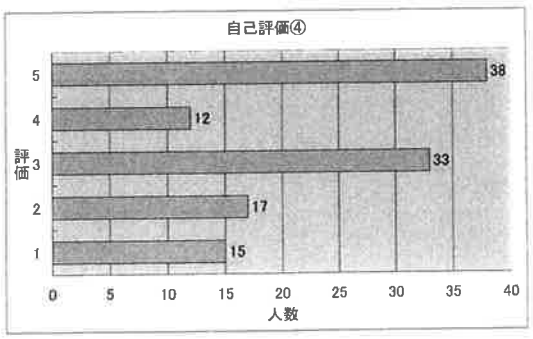
111名（97%）が教育実習はこれからの人生にとって貴重な体験となったとしている。

③大学卒業後は、教職関係に就職したい。



大学卒業後は、教職関係に就職したいとする者は、53名（46%）である。

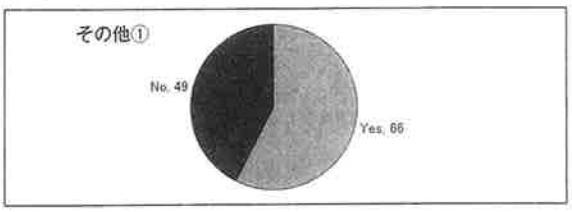
④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。



大学を卒業してからも、教員採用試験を受けるつもりの者は、50名（43%）である。

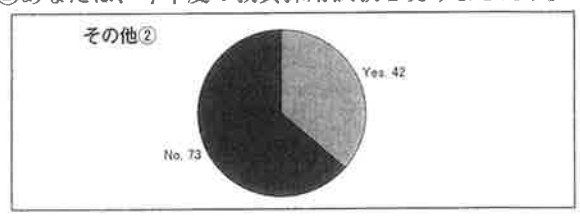
Ⅲ．その他

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。



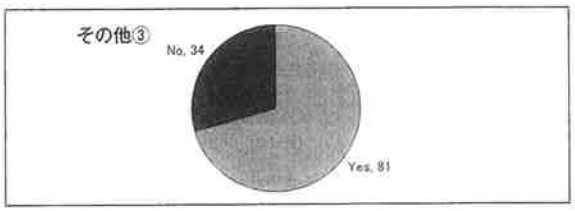
授業実践を一度でも経験してから教育実習に行った者は、66名（57%）である。

②あなたは、今年度の教員採用試験を受けましたか。



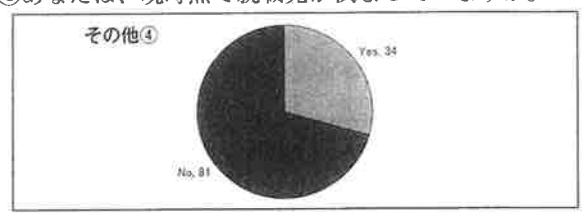
今年度の教員採用試験を受けた者は、42名（37%）である。

③今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていますか。



81名（70%）が今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていたとしている。

④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。



平成21年11月27日（金）の時点で就職先が決まっている者は、34名（30%）である。

Ⅳ．教職課程への要望

各学科とも記述がみられた。中から学科ごとに一点ずつを抜粋し、以下に掲載する。

・講義では話を聞いたりすることが多いので、出来れば指導案のポイントなどをより多く教えて欲しいし、実践的に学生が授業を行うことを増やして欲しい。（国文学科）
・実習後の意見を聞く機会がもう少し欲しかったです。（英文学科）
・異なる講義で内容が重複する場合がある。ある程度はやむを得ないことかもしれないが講義内容のほとんどが重複するのは効率的でないように感じる。教職課程の授業を担当する先生方で講義内容を話し合って、できるだけ重複しないようにしてもらいたい。（史学科）
・模擬授業をする事によってどのような効果（実習中のはげみや安心感等）が生まれるのかなど、具体的な説明をしたほうが良いと思います。実際の教育現場の方々のお話も大切ですが、実際に実習に行った人々（本気で教師を目指す、目指さないは関係なく）の話をもっと聞きたいと思いました。「生徒とどう接したか」や「どのように授業をしたか」など、学科ごとに実習生を囲んで話をするほうが色々と聞けると思います。（芸術文化学科）
・中学校・高校の教員経験者の方がいれば、自分達は高校の授業もどんなものか覚えていない部分があるので、全体の前で模擬授業をしてほしい。そこからヒントを得られれば学生同士のものとは別のものになると思う。（文化財学科）
・模擬授業は数を重ねれば重ねるほど、授業がうまくできるようになっていた気がしたので、回数をこなせる機会があればいいと思う。（人間関係学科）
・講義が学科の必修と重なったりして受ける授業が前後したので、講義時間を学科と話し合って調整してほしかった。教育実習後に受けることになった授業があったので。（食物バイオ学科）
・連絡事項など、きちんと食物棟の掲示板にも貼って欲しい。（食物栄養学科）

4．まとめ

以上のような結果から、平成２１年度に教育実習を終えた教職課程履修者については、次のようにいうことができよう。

①十分に教材研究を行い、熱意をもって授業にのぞみ、積極的に生徒に接している。
②遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守っている。
③教育実習を通して学習指導案の作成能力が向上している。

平成19年度も平成20年度もほぼ同じような結果であった。「大学生」といえども、ひとたび学校現場に入ったら生徒やその保護者からみれば、ひとりの「教師」である。熱意をもって教育実習にのぞみ、これを通して学習指導案の作成能力が向上していることは大いに評価されてよい。特に、学習指導案の作成能力の向上については、昨年度よりもその割合が9%上昇している。教職課程履修者全員が各教科の指導法などで授業実践を一度でも経験してから教育実習に臨むようになれば、そうした作成能力の向上はもちろんのこと授業自体の質的な向上も目指していけるようになる。あらかじめ模擬授業をしておくことにより、あとの本番の授業のための改善点が明確になるからである。

一方で、大半の履修者が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守っている。これについても昨年度よりも5%上昇している。これに安心することなく、今後本学では全員が守っていけるようにしていきたい。さらに、次のようなこともわかった。

④教育実習は今後の人生にとって貴重な体験になっている。
⑤平成２１年度の教員採用試験を受けた者は、４割弱程度である。

教育実習は今後の人生にとって貴重な体験になったと受けとめられている。しかしながら、教育職員免許状を取得することの意味をさらに深く受けとめて欲しい。教育職員免許状は、教員としての資質・能力を保証するものである。この資質・能力を自らに問える機会が教員採用試験といえる。上で４割弱程度と記したが、実は昨年度よりも５％上昇している。教職課程としては、更なる上昇を期待している。学生時代に是非とも教職課程履修者全員が受験にトライしてほしい。受験し、また受験し続けてこそ、自らの資質・能力を問うことができるし、自らの立ち位置と進むべき道が明らかになるだろう。

われわれ教員も、本学教職課程履修者の要望にひとつひとつ応えていくつもりである。本学で教員養成の段階を過ごす学生のなかから一人でも多くの優れた教師を輩出していきたい。